

土・人・水

イベント開催十周年

長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766

「越前沢堰水系地域用水対策協議会」から継承して実施してきた。ふれあいイベントは平成21年度で第10回目を迎え、節目として新たな内容を盛り込んで、節目という趣旨から、常任委員・幹事の合同会議で協議をしたところ、一農具川最下流部の汚れた状態を知ってもらふことで、水を大切にしようという気持ちが生まれる」という提案があり、イベント会場に特設ギャラリーを設けました。

8月22日(土)、例年行われている親水広場で約75名の参加者は、恒例の草取り作業をしたあと、親水池に放されたイワナやマスの掴みどりで歓声をあげました。また、今年は市役所から提供していただいたカプトムシのつがい無料配布し、子どもたちには大変好評でした。子どもばかりでなく、何年振りかでカプトムシに触れた大人たちも、あれほど大量に見たカプトムシは初めてと驚いた様子。指にしがみついたカプトムシを放そうとしても力が



ちょっと怖いけど・・・

強く、なかなか離れずに困っていました。子どもたちには、カプトムシだけではなく、飼育方法を書いたチラシも配布し、育てることの大切さを伝えました。

また、用水として取水された清らかな水が、わずかに数キロメートル流れる間に、濁り、ペットボトルや発砲スチロールなどが浮いて汚れている—そんな状況を知ってもらうため、市内数か

市街地に向かって鹿島川水系から取水した越前沢堰、北荒沢堰、竜川水系から取水した大町新堰、高瀬川水系から取水した大蔵宮堰(長吉堰)の上流部は、ともに若干の沈殿物は見られるものの、家庭によっては洗い場もあり環境的には汚れは感じられず、この3本の幹線水路が合流する王子神社横でもほとんど汚れは確認できない。

一方、農具川水系から市街地に向かって流れ込む町川取水地点では、多少の浮遊物や沈殿物が見られたが、こちらも昔からの洗い場が存在し生活に密着している風景が残っている。

次に、ほとんどの水路が市街地で合流し、本通りの東西に分かれ歩道下を

目で見る川の汚れ



会場の特設ギャラリー

所から採取した水の水质を見比べるギャラリーを開設し、参加者の関心を集めました。



本通り歩道下を流れる町川からも採水

暗渠で流れる下町付近では、採水の際、若干の臭いにより汚れを感じたものの浮遊物はあまり確認できなかったが、そこからわずか500m程下流で、都市下水路の水と合流した相模組北付近では、浮遊物、沈殿物も多く、とても手足を洗う気にはなれないほどの状態であり、その違いに驚いた。

また、農具川の社青島(大町市クリーンプラント東)で採水したところ、浮遊物、沈殿物ともに多く見られ、最終的に農具川に流れ込む町川も農具川の水質に影響を与えていると思われる。

なお、今回の調査は化学的数値などによるものではなく、採水した水を目で見て感じ取ってもらうことを期待したもののだが、都会のような明らかな汚れ具合は見えなかったものの、それに甘んじることなく、清らかな雪解け水がそのまま下流に流れて行くための啓発を更に進めて行きたい。

大切な用水 でも危険がいっぱい

生活に欠かすことのできない用水路。しかし、管内において、昨年度中に2件の用水路への転落死亡事故が発生しました。犠牲となられたお二人には、心よりご冥福をお祈り申しあげればかりです。

かんがいには、環境に、生活に、防火にと幅広く利用されている用水路の現状は、道路沿いなどで歩道として使用するために蓋をする場所を除けば、使い易さもあることから危険と思われる全ての箇所転落防止施設を施すことは困難な状況です。

北アルプスの清らかな雪解け水が少しずつ融けだして急流を下る当地域の用水路は、大切な地域の宝であると同時に、一歩間違えば大変危険な施設となってしまう。当協議会では行政と連携しながら危険箇所には危険を知らせ、事故を未然に防ぐ看板などの設置を考えています。今後はイベントなどの機会があることに、用水路の大切さと怖さを啓発していく予定ですので、皆様も自治会活動や児童会等の機会に話題としていただければ幸いです。



危険を知らせる看板

「農」から広がる 総合学習

本年度も、大町西小5年1組(坂井先生担任)、2組(井出先生担任)の児童6名による、「農」から広がる総合的な学習の一環として、米作り体験が始まりました。

4月とは思えない寒風が吹きすさぶ中、4月16日にはライスファーム野口より提供していただいた「オラガモチ」の種まきを行いました。冷たい手に思を吹きかけながらも、上手に蒔くことができました。

毎年行っている泥んこ代播きは、田



ロープに沿って一斉に植えました

んぼの中を自由気ままに飛び回ることが出来る最大のお楽しみでしたが、寒い日が続くため今年度は断念し、地主の平林さんがトラクターで代播きをする見学を行いました。

天気もようやく春らしく落ち着いた5月19日には、児童全員による最近ではあまり見かけなくなつた、手植えによる田植えを行いました。両方の畔からクラスごとに一列になり、印の付いたロープを張って立派に育った苗を植えました。最初は要領を得ず、稲繁に先生から注意を受けていた子どもたちも、次第にコツを覚え、終わるころには一人前になり、見事に緑一面になりました。

こうした体全体を使った体験を通して水や土や風に触れ、作物の成長を見る喜び、動植物の美しさや不思議を感じる一助になってほしいものです。

子ども絵画展で 見事受賞

昨年度で9回目を迎える全国水土里ネット主催の絵画展へ応募した、大町西小5年生(現在は中学一年生)が水・土・里にまつわる題材で描いた作品が、左記の賞を受賞し、平成21年12月1日に牛越会長より伝達が行われました。

◆全国絵画展応募総数14、204点

◆受賞者

入選(全国で104点)

白井ありす さん

地域用水優秀賞(参加登録団体賞)

長澤龍佑 さん



牛越会長より表彰状を伝達

居谷里堰と横堰

比較的急流が多い大町市の農業用水路の中にあつて、穏やかな流れが特徴的な水路に居谷里堰（いやりせぎ）と横堰（よこせぎ）があります。居谷里堰は中山山地の居谷里地籍から流出する湧水を水源として、また、横堰は三日町花見地籍で農具川から分水され、それぞれ等高線に沿って段丘上まで導水されて、松崎、館之内、常光寺、木船の四集落の灌漑用水に使われています。

古くから居谷里堰の水の約半分は三日町など大町村で使うこととされており、残りの8割近くは常光寺と木船両村の権利とされ、松崎と館之内が使えりのは約2割ほどでした。一方で横堰を使用する権利は、松崎と館之内が大部分をもっていました。今でもそれぞれの水路で灌がいする水田は固定化されており、集落ごとに順番を決めて水をかける「番水（ばんみず）」の仕組みも残されています。

土木工学が発達していない時代、こうした長い距離の水路を等高線に沿って延々と引いてくることは、大変に高度な技術が必要としました。今も「夜間に提灯の明かりを目標にして測量した」というような話が伝わっていますが、目的地から見て取水地点を定

めるには何らかの測量術を必要とします。また、短期間に工事を完了させるためには「帳場割」をして工区を定め、多くの資材や人間を動員することも必要です。何よりも強力なリーダーシップが求められました。

これらの水路ができた時期については、現在のところ明確にする史料がありません。居谷里堰については、江戸時代初めの一六五七年に大規模な改修が行われたことが記録に見え、どちらの水路も鎌倉時代から室町時代のある時期に、この地方を治めていた仁科氏の力によって開墾（かいさく）されたものと考えられています。また、両水



居谷里堰（松崎地区）



横堰（常光寺・館之内地区）

路のどちらが早く開かれたかについても様々な見解がありますが、両水路を見下ろす位置には、曹洞宗寺院では信濃で最も早く開かれた大洞山霊松寺が立地しており、同寺には、「諏訪大明神が領主である仁科盛忠に開山となった実峰和尚を引き合わせた」との寺伝が残されていることから横堰の方がやや早く、霊松寺が開山された明徳四年（一三九三）を少し遡る頃と考えるのが妥当ではないかと思われます。

横堰は農具川から木崎湖を経て鹿島川へと繋がっており、居谷里堰には水量を確保するために、いくつかのため池が設けられています。今、社の段丘上をゆったりと流れ下るこれらの水路を見るときに、この水を確保するため私たちが祖先が果たしてきた役割の大きさに感嘆せずにはおられません。

ふれあいイベント 「土・人・水」

恒例になった「ふれあいイベント」は、今年で11回目となりますが、昨年同様、越前沢堰親水広場周辺の雑草取り、子どもを中心とした魚のつかみ取り、用水路への魚の放流などを行います。

地域子供会の行事や、家族ふれあいの場の一つとしていかがでしょうか。大勢の参加をお待ちしております。

なお、当日は昼食（おにぎり）とお茶を用意します。

◆主催 水士里ネットおおまち

◆日時 地域用水対策協議会
八月二十一日（土）
午前九時開会
正午終了予定

◆会場 平藪鼻 越前沢堰親水広場

◆持ち物 作業のできる服装

◆申込 タモ網、魚の入れ物
八月十四日迄に左記まで

水士里ネットおおまち
（大町市土地改良区）

TEL 22 5542

E-mail
midori-net.omachi@cores.ocn.ne.jp
http://www.midorinet-omachi.jp/

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2009

大町西小学校5年生が、総合学習で取り組んだ米作りを通して体験した農作業の様子を、それぞれが力強いタッチで表現してくれました。米作り体験を通じて感じた用水の大切さをみんなが理解して、これからも大事に守っていくという意識が生まれたことを期待しています。

寄せられた作品は水土里ネットおおまち地域用水対策協議会で審査を行い、協議会の席上で牛越会長より表彰状と記念品が贈呈されました。受賞作品は次のとおりです。(敬称略)

会長賞

「稲刈り」



杉谷 和也 (大町西小5年2組)

理事長賞

「泥だらけになった代かき」



梨子田 小夏 (大町西小5年1組)

入選 (大町西小5年1組)

「一生懸命やった稲刈り」



古平 夢夏

「楽しかった稲刈り」



宮本 京佳

「丈夫な稲」



吉田 沙理

「がんばった米作り」



川上 紗世

入選 (大町西小5年2組)

「楽しかった田植え」



杉山 里歩

「大変だった田植え」



松井 菜々子